

BMS コンファレンス 2022 参加報告

共通機器部門 共通利用機器管理班 山口信雄

1. はじめに（目的等）

BMS コンファレンスは日本質量分析学会の部会である BMS 研究会が主催する、合宿形式で参加者が対等に意見交換し学び合う場として「ライフサイエンス研究の発展を推進するとともに、人材の育成を通して、人、社会、ひいては地球の未来に貢献する」という理念のもとで活動している。

コンファレンスでは基礎から応用まで、時代に即応した様々なトピックスを取り上げ、大学等や各種研究機関、企業の質量分析に携わる研究者・スタッフを中心に幅広い職域から参加者が集まる。

今回の BMS コンファレンスでは、「質量分析基礎講座」「食と調理と考古生化学」「新しい分野と生物の新発見」「機械学習と MS、生命科学」「MS オミクスで食を科学する」「MS による COVID-19 検出法、疾患バイオマーカー探索と抗体利用」などライフサイエンス研究において質量分析をどのように活用していけばよいのか、質量分析の様々な可能性が議論された。さらに「若手未来セッション」「初歩セミナー ～MS の寺子屋～ MS を知り、MS を学び、MS がもっと好きになる」において BMS 関連の若手を含む多くの研究者、技術者の参集により活発な議論が早朝から深夜まで行われた。

2. 期間・場所

期間：令和 4 年 10 月 24～26 日

場所：ダイワロイヤルホテル THE KASHIHARA

3. 参加者等

研究者・技術者・メーカー等 131 名

4. 研修内容

質量分析に関わる最新の動向・技術・装置等の紹介。研究者と技術者、技術者同士の交流。

5. まとめと感想

コロナ後、久しぶりの開催ではあったものの、例年通りに近い形で行われた。非常に濃密なスケジュールで質量分析における基礎の徹底的な復習から最新の動向や情報が得られた。今年度は特に機械学習（AI）に関する発表が非常に興味深く、大量の生データをどのように適切な結果に導くか、さらに得られた学習成果をいかに簡単に引き出すかといった発表に興味をそそられた。変わり種としては遺跡のカビ繁殖を早期発見するため、あるいは古代の土器に付着した残存物から当時の食生活を推測するなどの発表もあり、幅広い分野で活用されている様子が伺えた。交流面では技術者のみならず研究者・開発者と広く意見を交わすことができ、オンサイトでしか得られないことが大事だということを再確認できた。なお、本会のポスター発表の 1 題（質量分析技術研究会の紹介 2022）に共著者として名を連ねさせていただいた。